

## 高校生地域防災ボランティアリーダー養成研修の報告

### 1 目的

東日本大震災を受け、高校生自身が、自らの身の安全は自ら守る『自助』の力と、自らの地域は皆で守る『共助』の精神を育むことは、地域の防災力にとっては重要なことである。また、災害発生時に備えて、高校生がいざというときの救援活動等に貢献できる実践力を身につけておくことも必要である。こうしたことから、防災に関する基本的な理解を深め、地域との連携を密にしながら、被災者の救援、物資の移送、食事の提供などさまざまな活動で社会貢献できる「高校生地域防災ボランティアリーダー」を育成する。

また、本事業は、平成24年度から実施し、5年間で1,800名の高校生ボランティアリーダーの養成を目標としている。

### 2 会場・日時

#### 津山会場

日時：平成28年8月2日（火） 9時30分～16時00分

会場校：岡山県立津山高等学校

#### 岡山会場

日時：平成28年8月5日（金） 9時30分～16時00分

会場校：岡山県立岡山御津高等学校

#### 倉敷会場

日時：平成28年8月9日（火） 9時30分～16時00分

会場校：岡山県立倉敷青陵高等学校

### 3 参加者数

	津山会場	岡山会場	倉敷会場	計
参加校数 (うち中学校数)	8校 (1校)	20校	23校 (1校)	51校 (2校)
参加生徒数 (うち中学生数)	95名 (7名)	97名	106名 (13名)	298名 (20名)

参加生徒数は、会場校スタッフとして働いた生徒数も含む。

#### 4 実施プログラム

時間	内 容		講師等
9:00～	受 付		
9:30	開会式	挨拶・諸注意	
9:35	体験発表	①「高校生にできること」 AMDA中学・高校生会 ～AMDA中学・高校生会の活動を通じて～	
		②「平成27年度被災地における防災ボランティア研修に参加して」 ボランティア研修参加生徒	
10:20	炊き出し準備	参加者全員で炊き出しの下準備	日本赤十字社岡山県支部
11:00	実技講習 各コースに分 かれて実施	Aコース「地震・火災から守る」	【津山会場】:津山圏域消防組 合消防本部 【岡山会場】:岡山市北消防署 御津出張所 【倉敷会場】:倉敷消防署
		Bコース「救助活動」	日本赤十字社岡山県支部
		Cコース「災害時の活動」	【津山会場】:陸上自衛隊日本 原駐屯地 【岡山会場】:自衛隊岡山地方 協力本部 【倉敷会場】:陸上自衛隊三軒 屋駐屯地
12:30	昼食	災害時非常食を昼食とする	
13:20	演習	グループ演習・討議 「災害時に必要な行動や高校生に しかできない災害時支援について 考える」	NPO法人まちづくり推進機 構岡山
15:30	閉会式	挨拶・代表生徒挨拶	

## 5 研修内容

### (1) 体験発表

東日本大震災等でボランティア活動を実践した高校生の体験発表などを聞くことで、「今、自分たちにできること」「将来、自分ができること」は何かを考えることねらいとした。

#### 【AMD A 中学・高校生会】

「高校生にできること」～AMD A 中学・高校生会の活動を通じて～

アムダ中学・高校生会は、1995年の秋に発足したボランティアグループである。発表では、東北を訪れ被災した方たちとの交流を通じて、被災者の言葉や思い、求めていること等についてまとめ、中高生が自分たちにできることなどについて発表した。

(津山会場)



(岡山会場)



### (2) 炊き出し準備

日本赤十字社岡山県支部スタッフの指導のもと、参加者全員で「ハイゼックス」という特殊な袋に1人分の無洗米と水を入れる作業を行い、炊き出し準備を実施した。ハイゼックスをゴムで縛る際には袋の中に空気が入らないように（沸騰した際に膨張し、袋が破裂するため）することがポイントとなる。引率教員も炊き出し準備作業を行い、参加者が互いに教え合ったりする光景も見られた。

(岡山会場)



### (3) 実技講習

参加生徒は、A～Cの各コースに分かれて、体験活動や実践的な訓練等を学習した。

#### ①Aコース「地震・火災から守る」

各会場の管内消防署へ指導を依頼し、地震や火災、水害が発生したときの初期対応等について学んだ。グラウンド等で起震車による地震体験、消火訓練、土のう積み訓練等を体験した。

(上段：倉敷会場、下段：津山会場)



心肺蘇生法



消火訓練



土のう訓練



消火訓練



土のう訓練



地震体験

#### ②Bコース「救助活動」

日本赤十字社岡山県支部スタッフの指導のもと、担架や毛布等を利用した搬送訓練や、ハンカチ、三角巾等を活用した負傷者に対する応急処置法を学んだ。生徒は、事前に編成していたグループに分かれ、救助者と負傷者の役割を交代しながら学習した。負傷者が動揺したり不安にならないよう、声かけをしたり安全に移動したりするポイントを学んだ。

大規模災害時には、高校生らが負傷者はもちろん、幼児や高齢者、障害者等を支援することが重要であることから、これらの技術を身につけることはもとより、互いに助け合う態度を身につけることができた。

応急手当（津山会場）





### ③Cコース「災害時の活動」

自衛隊岡山地方協力本部の指導のもと、災害時に必要な行動として、ロープワークや心肺蘇生法について学んだ。また、普段見ることができない救助器材を実際に見ることができ、さらに詳しく説明も聞いた。生徒は、災害が起きた時、必要な道具がそろっているとは限らず、道具が少ない状況でも、今あるものを使って救助等をする方法について学んだ。

救助器材の説明（岡山会場）



ロープワーク（倉敷会場）



### （4）昼食

災害時の昼食として、ご飯、レトルトカレー、お茶をメニューとした。ハイゼックスの袋で炊いたご飯は、「こんなにおいしいとは思わなかった。」や「固かった。」など、生徒からさまざま感想が聞かれた。

災害時の食事を口にするすることで、日常の食事のありがたさや、非常食の備えの重要性を感じていた。

（津山会場）



## (5) グループ演習

「災害時に必要な行動や高校生にしかできない災害時支援について考える」

NPO法人まちづくり推進機構岡山の徳田さん、山名さん、中村さんの指導により、グループ演習を実施した。

はじめに自己紹介や午前の実技講習の振り返り、災害への関心などの質問をしながらグループ内のアイスブレイキングを行い、その後、演習を二つ行った。

一つめの演習は「クロスロード」を行った。参加者は、用紙に書かれた事例を自らの問題として考え、YESかNOかで自分の考えを示すとともに、参加者同士が意見交換をしながら、ゲームを進めた。

災害対応においては、必ずしも正解があるとは限らず、また、過去の事例が常に正解でないこともあるため、ゲームを通じそれぞれの災害対応の場面で、誰もが誠実に考え対応すること、また、そのためには災害が起こる前から考えておくことが重要であることを学んだ。

二つめは、「避難所運営ゲーム（HUG）」を行った。限られた時間内ではあったが、このゲームを通して災害時要援護者への配慮をしながら部屋割りを考え、また仮設トイレの配置などの生活空間の確保、生徒たちの想定していなかった出来事に対して、思いのままに意見を出しあったり、話し合ったりしながらゲーム感覚で避難所の運営を学んだ。

(岡山会場)



(倉敷会場)



(津山会場)



## 参加した生徒の感想（一部のみ掲載）

### 高校生「地域防災ボランティアリーダー」養成研修に参加して

○ この研修に参加して、今まではあまり考えることのなかった防災についての知識を得ることができた。東日本大震災で岡山に避難してきた人が他県と比べてもかなり多いことに驚いた。最初に AMDA についてプレゼンを聞き、私たちと同じ年齢の人が世界中の多くの人のために様々な活動を行っているということに感銘を受けた。自分にもなにか小さい努力ができるのではないかと考えさせられる経験となった。

続いて非常食用のごはんの炊き出しを行い、思っていた以上に真空状態にするのが難しかった。実技講習では応急処置の方法を学んだ。普段は学ぶことのできない三角巾での処置は自分にも簡単にできたので、この処置方法をこれからも覚えておいて、いざとなった時に生かせるようにしたい。昼ごはんを食べたカレーはご飯が固かったり、柔らかかったり……。それでも災害時にはとても役立つものだと思う。

午後には、防災についてゲーム形式で学ぶことができるものに参加した。前半のイエスノークエスションの時には、もし災害が起きた時に、高校生として、ボランティアとして、自分に何ができるのかを考えることができた。グループ内では白熱した議論になり、災害が起きた時のより良い対策について深く考えることができた。後半の避難所運営ゲームでは、普段は体験できない避難所を運営する立場になってみることで、自分たちには事前にどんな防災ができるのか考えることができた。避難者の中には、お年寄りや外国人、障害や持病を持った方もいてそうした人々をどのような場所に誘導すればよいのかを瞬時に決めた。少しでも多くの人に快適に過ごしてもらえよう、避難所の意義についても考えた。

今回の研修を通して、防災に関する基本的な知識を学べたことはもちろん、その上で実践的な体験をすることもできた。自分の身は自分で守るという「自助」、地域ぐるみで皆で助け合う「共助」、この2つの精神が地域の防災にいかに大切か分かった。岡山県は災害が非常に少ない地域であるが、だからこそ、いざという時のために防災について学んでおく必要がある。もし災害が起きた時、積極的にボランティアに参加できるよう、実践力を身につけておきたいと思える研修であった。

○ 今回の研修会は私にとって「やっと」参加することのできた研修会だった。というのも、私は今回で3回目の申し込みだったのだが、1回目はあいにくの悪天候で中止、2回目は前日に怪我をしてしまい、3度目の正直で今回がやっと参加することのできた研修会だった。そのぶん、研修会開始前から「どのようなことを教えてもらえるのだろうか。」「どのようなことを学ぶことができるのだろうか。」と、期待が高まっていた。

実際に研修会に参加してみて、私は研修前に考えていたものよりも、多くのことを学ぶことができた。午前の実技講習ではCコース「災害時の援助」に参加させてもらったが、そこでは、実際に大きな災害が起こったときだけでなく、普段の生活や、もしもの時に使うことのできる知識を学ぶことができた。午後のグループ演習・討議では普段の生活ではあまり考えることがないが、災害が起こった時には必ず身近で問題になるであろう、答えのない問題や、避難所を運営する側にたったのHUGを通して、実際に災害が起こったときには自分はどう動けばいいのか。」ということを具体的に考えることができた。

今回の研修会では、私は実際に災害が起こったときの対応の仕方や、起こると考えうる問題の把握をすることができた。実際に災害が起こったとき、今回学んだことを元にして行動していくのはもちろんのこと、今回学んだことを普段の生活に生かして充実した生活を送っていきたい。

○ 会場に到着して、参加者の多さと活気とやる気のあふれた周りの雰囲気に対し少し緊張した。あらためて、今日『見て・聞いて・体験して』実りのある1日にしようと、積極的な気持ちを持つことができた。さらに体験発表では、自分と同じ岡山県の高校生が主体となって、被災地ボランティアや国際交流を行っていることに、自分も同じことができるだろうか・・・と考えさせられた。

昼食は、非常食を作って食べた。特殊な袋に入れて、空気を抜き、鍋で煮てご飯を炊いた。空気の抜き方が難しかった。被災地では、レトルトカレーや炊飯器を使わない方法での炊飯が必要なのだと実感した。

実技講習会では、止血法やバイタルサインのチェックを行った。以前体験したことがあったが、忘れていたことも多く、再確認できた。また、傷病者に負担をかけない移動の仕方など実践的でためになる内容を経験できた。グループ討議では、全く初対面のメンバーだったが、みんな積極的に意見を出し合い、深く話し合い、楽しみながら交流できた。

岡山県は、災害が少ない県だが、いつ何が起こるかかわからない。そのような時、一人の高校生として、どう判断し、どう行動すべきか考えさせられた。このような機会があれば、また参加したいと思う。

○ 今日の研修で多くのことを学びました。私はAコースなので消防署の方々に心肺蘇生法、土嚢積み、消火器の使い方を教えていただきました。まず、心肺蘇生法では胸骨圧迫を中心にAEDの使い方を教えていただきました。胸骨圧迫では自分が思ったより力と体力を使い驚きました。土嚢積みでは2人1組になり土嚢の製作、運搬をしました。話をしたこともない人との活動でしたがうまくできてよかったです。消火器は一度使ったこともあり、自信があったのですが、知らないことがあったり思い切って逃げることも大事なのが分かりました。

午後からのグループ演習・討議では1つの質問にYES/NOで答え、話し合ったり「HUG」というゲームで学んだりと楽しく活動できました。同じ学校の人には1人もおらずとても不安でしたが、自らリーダーに立候補し精一杯頑張れました。

今日の活動を通して2つ思ったことがあります。

1つはコミュニケーション力が大事だということです。今日は初対面の人と活動を多くしました。最初は緊張していましたが段々と話せるようになりました。被災地では知らない人ばかりです。自分から積極的に話しかけないといけないと痛感しました。

もう1つは正しい知識を学んでおくことです。この場面ではこうしなくてはいけない、ここはこうだ。といったように正しい知識をもつことにより、どんな場面でも臨機応変に動けるからです。今日学んだことを今後の生活に生かしていきたいと思えます。

○ この研修で私が学んだことは、とっさの判断の難しさです。私は選択講座をBコース「救助活動」を受講し、三角巾の扱い方を主に学びました。傷病者にかかる負担をできる限り少なく、いかに素早い処置ができるかがカギになることがわかりました。いざそういう現場に遭遇した時に、きちんと正しい



行動ができるようになっておきたいと思いました。

また、私が養成研修で一番印象に残っている内容はグループ演習・討議で行った HUG ゲーム（避難所運営ゲーム）です。HUG ゲームは、避難所の運営をシミュレーションするものでした。想定されるトラブルを少なくするため避難所のレイアウトを考えること、次々に来られる被災された方達を瞬時に判断して振り分けることなど、ニュースの報道で見る避難所の運営がこんなにも大変なことだとは思いませんでした。

もしも今災害が発生したとして、この研修を受講することで私たちにできることが増えたと思うと、知識として持つておくことの大切さを学びました。災害に遭遇した時、先を見通した行動ができるように、学んだことを周囲にも伝えていきたいと思います。災害がいつ起こるか解らないからこそ、心構えを十分に持って、いざというとき冷静な行動がとれるようになりたいと思います。

○ 今日、「地域防災ボランティアリーダー」養成研修に参加して思ったことは、「災害時のボランティアでは、様々な人との連携が必要」だということです。

実技研修では B コースの救助活動に参加しましたが、不器用な僕に講師の方が丁寧に指導していただき、包帯の使い方や生存確認のしかたなど災害時に役立つ知識をたくさん学ぶことができました。また、ペアになった人とも初対面でしたが積極的に意見交換をしながら、楽しく作業を進めていき、すぐに打ち解け合うことができました。

その後のグループ討議では「避難所運営ゲーム」をしました。最初は全体が早く進むだろうと思っていましたが、実際は自分とは違う意見の人もいて、また避難してくる人も様々で、本当に災害が起こったら、このようなことになるのだなと感じました。

災害時でも、周りの人への気遣いを忘れずに、今日の研修で習ったことをしっかり活用して自分のできることを精一杯やっていきたいと思います。

○ この研修に参加して印象に残っていることは、体験発表と避難所運営ゲーム「HUG」の体験です。まず、体験発表を聞いて様々なことが知れました。中でも、ボランティアに必要な力は「認識」「意識」「自覚」の三つが必要だと言うことが印象に残っています。

私は、「意識」「自覚」は、あると思っていますが、「認識」が十分に備わっていないと思いました。「現状の正しい判断」や「行動力」というのは、体験しないと身につかないものだと思います。そこで良い経験となったのが「HUG」でした。その場の現状を理解し、避難者の配置を決めるというゲームでしたが、想像以上に難しく、時間内に完成できませんでした。実際の現場では、もっと多くの避難者を配置していかないといけないと思うと、とても大変な作業だと実感しました。「認識」を備えるためには、もっと多くの体験や練習をしていかないといけないと思いました。また、自助、共助が大切というのも印象に残っています。「一人一人、自分の命を守ろうとすれば全員の命が守れる」という言葉に、「なるほど」と納得しました。しかし、障害者や高齢者、幼児は補助が必要です。その時、自分が積極的に動けるように、また、そのほかの手伝いなどでも率先して動けるように、これからも防災ボランティアに参加したいと考えています。ありがとうございました。